



「病院嫌いの人のための医療 ～ドクターカフェが作る新しい居場所～」

- 話題提供者
医療法人社団富田クリニック 理事長 富田 一聖さん

病院嫌いの人へのアプローチが必要やけど

↓
カフェに行ったらたまたま医者がいるっていいなあ

↓
DR.TOMMYの「ドクターカフェ」(白衣を脱いで、
フランクに医療相談できる場)を開始



【DR.TOMMYのドクターカフェの歩み】

- 2021年ドクターカフェ開始
初めのスケジュール
座学⇒健康相談・雑談⇒座学⇒健康相談・雑談
妻のスライドチェックで、患者さん目線で説明
- 2022年ドクターカフェ上半期
新聞やラジオ出演
- 2022年ドクターカフェ下半期
対談イベントや出張型ドクターカフェを実施
- 2023年ドクターカフェ上半期
2周年クイズ大会&ランチ企画を実施
- 2023年ドクターカフェ下半期
DR.TOMMYの食生活を全て晒す企画で、野菜ファーストはほんとに良いのか?実証
⇒自分をさらけ出し、「あんたやったら見てもらってもいい」ファン作り
- 2024年ドクターカフェ
独居でなかなか外に出られなかった方も参加
宅老所での「ドクター居酒屋」で居場所作り!



今後のビジョンとして、月一で続けながらも常にここにいるよ、ということもできたらよいと考えている。

ポイント

☆社会的なつながりが強い人は、孤立している人に比べて死亡リスクが50%低い

4月のワーキンググループ会議は、医師である富田 一聖さんが、病院嫌いの人へのアプローチが必要ということから、「白衣を脱いで、フランクに医療相談できる場を作っちゃおう」ということで始められた「ドクターカフェ」についてお話をいただきました。

社会的なつながりの強さが死亡リスクに関連するという話があり、今年度のワーキンググループ会議のテーマとしている「居場所」、「つながり」について、改めて大切であるということへの気付きとなる機会でした。

【参加者の声】

- ・どんな方でも聴きやすいような場所づくりが大事だと思った。
- ・出かける場所があるということは、いいこと。飲食ができるというので出てきて、話をし、医師に聞いてもらえるというのは、普段病院では話せないことや普段の思いを話せるのはよい。
- ・白衣を脱いで話をするのが新しい取り組みであり、かつ大事なことである。
- ・人が集まる、集まらないに関わらずスタートしたのがすごい。医療福祉の業界で長く働いていると、元気な人と接する機会が多い。自ら出て行って、元気な人へ予防するためにきっかけづくりをされているのもすごい。
- ・興味を持ってもらうための引き出し、色んなテーマで実施するのも間口を広げるために大事なんだということが分かった。
- ・業種・職種に関わらず、誰でも実践できることなので、自分に当てはめてやっていけないのではないかな。複合的なこと、昔まちの中にあっただ、高齢者と子供が触れ合える食堂等が今では分断されている。そういうものが復活すればよい。
- ・地域に開かれたコミュニティ、自分の事業の中で作っていきたい。
- ・やらなくてはならないではなくて、やりたくてやっているという姿勢が、続いていて、皆も参加している。
- ・医療従事者が外に飛び出していくことが大事なのかな、「Dr トミー」、「近所のおっちゃん」等肩書を外して関わりができるようにしていかなければならないのかな。
- ・血糖値のグラフ、焼きそばとサラダの写真で自分にもできることなんだなと思った。
- ・居酒屋もして、子ども食堂もして、というような、色んな世代が集まる場。一つの場所で色んな取り組みをする中で、医師の話を聞いてみて、人が分かれば病院嫌いの方も病院に行ってみようという気になるのでは。
- ・医者が患者の話を聞いていないのではないかな。言いたいことを言って、PCの方を向いていて話すタイミングがない。
- ・医師だけでなく、看護師、社会福祉士、リハビリ等、色んな人が話を出来る場があれば、悪くなる前に話を聴きにいけないのでは。



【次回ワーキンググループ会議】

- 日時：令和7年5月22日(木) 18:30~20:00
- 場所：滋賀県庁新館7階大会議室 (Web参加可)
- テーマ：「地域まるごとケアにおける薬局での取り組み」
- 話題提供者：丸山薬局 薬剤師 大石 和美 さん



医療福祉の地域創造会議 事務局

(滋賀県庁 医療福祉推進課内)

Tel 077-528-3529

e-mail info@chiikisouzoukaigi-s higa.jp